

自由記述による学部ゼミのあり方に関する研究

教育心理学専修・相模健人

1. 授業の概観

臨床心理学研究は学校教員養成課程教育心理学専修における指導教員と指導学生のクローズドなゼミ形式の授業である。この授業での討論や各人のテーマに沿った個別の助言指導を通じて、それぞれの研究課題について認識を深める。到達目標は臨床心理学に関する卒業論文を完成することである。この授業を対象に自由記述によるアンケートで授業研究を行った。1年半の授業であるため、卒業論文の完成した4年生を調査対象としている。3年後期では各自毎週2編の文献(内月に2冊は本)を探して読み、レビューを行うことを課題とし、卒業論文のテーマを決定することを到達目標とした。続く4年前期では集団ゼミを行い、卒業論文の研究計画を立て調査、問題、目的を完成することを到達目標としている。4年後期では個人ゼミを行い、卒業論文を完成することを到達目標としている。本年は2人の学部生を対象に開講しており、週1回1時間を基本としながらも受講生の希望や全体の進度により、長期休み中または週数回ゼミを随時行った。

2. 授業評価法

①調査対象

教育学部教員養成課程教育心理学専修学部生 2名。男性1名、女性1名

②調査時期

2012年2月

③調査方法

自由記述による調査用紙をメールにより依頼、回収した。調査項目は8問である。「1年半のゼミを振り返っての率直な感想をお書きください」、「卒業論文を作成する上で、ゼミが特に役立った点はどのような点ですか?」、「卒業論文を作成する上でゼミがもう少しサポートできた点はどのような点ですか?」、「シラバスの到達目標が達成できた点、できなかった点を教えてください」、「ゼミの頻度、回数に関して思うところを書いてください」、「出来上がった卒業論文について感想を教

えてください」、「ゼミの改善点を教えてください」、「その他ゼミについて自由にお書きください」という質問について自由記述にて回答してもらった。

3. 授業評価結果

以下2名の回答を見ながら考察を行ってきたい。

①ゼミの感想

最初の「1年半のゼミを振り返っての率直な感想をお書きください」については「あっという間でしたが、やりきったという達成感があります。とりあえず相模先生についていけば間違いないということで、一生懸命ついていったという感じです。他のゼミ生にも助けられながら、何とかやってこられたように思います」といった学生との信頼関係が築けていること、学生同士の助け合いがあったことを評価している。もう一人の学生は「ゼミを通して、自分の興味があること調べたいことを考えることができてよかったと思う。毎週何をして、いつまでに何をしていけばいいのかを明確にしてゼミを進めていただけたことが分かりやすくよかったと思う」と書いており、自分の興味に沿って適切な課題が行われたことも評価されているようである。

②ゼミが役立った点

「卒業論文を作成する上で、ゼミが特に役立った点はどのような点ですか?」については、「3年生のときに、毎週論文を読みレジュメを作っていたことが卒論にとっても役立ったと思う。テーマ決めや、その後の考察の参考になったと思う」と3年後期での文献レビューが役立ったことを挙げている。これは学生が文献収集を覚え、卒業論文のテーマを決め、執筆においても役に立ったと考えられる。もう一人の学生は「卒業論文は自分一人ではできなかったのが相模先生の導きがあってこそだと思います。よって、役立った点としては毎回のアドバイスや課題等、ゼミで行ってきた全てのが役立ったと思います。特に、いつまでに何ができているべきかなど、先の見通しがつきや

すい指示だったのが役立ちました。そのため、自分なりに先々を見越して資料集めや整理などができたと思います。」といったゼミの課題が明確であることが評価されている。特に学部生は論文を執筆することが初めてであるため、ゼミについては見通しや計画を立てて課題を科すことが役立つと考えられる。

③ゼミがもう少しサポートできた点

「卒業論文を作成する上でゼミがもう少しサポートできた点はどのような点ですか？」については「十分ご助力いただいたので、特にありません」、「毎週やってくることの短期目標と、いつまでに何をやるのかという長期目標が明確だったので、自分としてはそれだけで十分だったと思う」という特にないという意見が多い中、「強いというならば、SPSS を用いた研究の仕方などのアドバイスがほしかった」との意見があり、統計面でのアドバイスを充実させていく必要があると考える。

④到達目標の達成について

「シラバスの到達目標が達成できた点、できなかった点を教えてください」、については「卒業論文は完成できたので目標は達成できていると思います」や「早め早めに卒論完成に向けた取り組みができていたので、達成できていた」と基本的に達成されていると学生は考えていることが分かる。ゼミの進行が少し早めに先を見越して行われていることが評価されている。

⑤ゼミの頻度、回数について

「ゼミの頻度、回数に関して思うところを書いてください」については「毎週1回と、必要な時に適宜指導していただけたのでちょうど良いくらいだと思う」ちょうどよいとの意見がある。また、時期においては週2~3回とゼミの回数を増やしたことについては、「初めのころは週に1回でしたが、だんだん週に2回に増え、他との両立が大変だった面も多少はありました。しかし、週1の頃は毎回の課題の内容が濃かったので内容と回数を鑑みると適度だったのではないかと思います。また、毎回の時間はそれほど長くないので負担は感じませんでした」とうまく課題を分散させながら、行えたと考える。

⑥卒業論文について

「出来上がった卒業論文について感想を教えてください」については「何だか自分で書いたので、これでいいのだろうかという不安な面も少しあります」や「自分でもなかなか理解できていない部

分があると思うが、最終的に本当に論文を完成できるとは思わなかった」と答えているが、「ただ、何よりも問題から考察まで全てやりきったので達成感も感じています」や「調査から考察まで、多くの時間が掛かったが納得できる論文ができたと思う。自分の興味のあるテーマで進めることができたので、最後まで投げ出さずにすることができたと思う」と大きな満足感を感じているようである。自分の興味に沿った卒業論文が書けていることが評価を大きく上げている点だと考える。

⑦ゼミの改善点

「ゼミの改善点を教えてください」については「時々、課題が「できるところまで」や曖昧な(感覚的な)指示だった際はどれくらいのものをしていけばいいのか正直戸惑ったこともありました」と挙げているものの、「ただし、その際こちらがどの程度していけばいいか、さらに聞き直したりすると丁寧に答えて下さるので特に問題点ではないです」と答えている。学生の状態を考えて「できるところまで」と伝えて、学生の質問に答える中で具体的に課題を示すことが学生のそのときの状態に合わせて課題を提示することができるようである。また、「他のゼミがどのようなことをしているか分からないが、改善点は特にありません」と特に改善点はないようである。

⑧ゼミの感想

最後に「その他ゼミについて自由にお書きください」については、「「頑固」な私でしたが、優しくご指導いただき感謝しています。本当に相模先生のもとで学習ができてうれしく思います」や「1年半丁寧に指導していただいてありがとうございました」といった感謝の言葉があり、全体的にゼミとして評価されているようである。

4. まとめ

以上、学生の回答からはゼミとしての運営として週毎の適切な課題、早めに進行していくこと、週1回を基本としながらも進度により柔軟なゼミ実施といった点が評価されており、現状で評価されているようである。しかし、今回は学生ゼミ2名のみ結果であり、今後数年重ねての研究が必要と考えられる。筆者はこれらの結果をまとめ、また研究を継続したいと考える。